

教科 科目名	国語	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	論理国語	履修学年(類型)	2 学年
教科書名(出版社名)		精選論理国語(東京書籍)	

●学習到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4・5月	発見への誘い	具体例や論理的な文章の構造に注目したうえで筆者の主張を理解し、自己や社会生活につなげて考える。
	6月	言語と認識	「問い」と「主張」、中心的主張と事例等の構造を把握し、言語と自我の関係、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。
	7月	資料を整理し、 テーマを吟味する	立場や論点等の様々な観点から情報を収集・整理し、目的や意図に応じて適切なテーマを設定する。
2	9・10月	人間を見つめる	文や文章の組み立て方、接続の仕方について理解を深め、筆者の主張を自分の人間関係やその在り方に引き寄せて考える。
	11月	社会を捉え直す	二項対立の論理展開や例示と意見の関係を整理することで主張を捉え、現代社会における人間の在り方について考えを深める。
	12月	社会的な話題に関する文章を 読み、短い論文を書く	現代社会に関する文章を読んで問いを立て、資料を収集する。論拠と主張等文章構成や論理展開を工夫し、自分の意見を短い論文に
3	1・2月	言語を再考する	論点を明確にしながらか要旨をつかみ、自己の考え方と比較したり、文化形成力や人間の思考との関わり等言語についての見方を広げ
	3月	資料を活用して 論述する	設定した論題に応じた資料の価値付けを行い、自分の意見を整理して論述する。資料の適切な引用方法を学ぶ。

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	実社会に必要な国語の知識が身についており、論理的に相手に伝えられている。	言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、的確に理解・判断し効果的に表現している。	言葉を通して他者や社会に関わっている。
B	実社会に必要な国語の知識を身につけようとし①、論理的に相手に伝えるように使おうとしている②。	言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ①、的確に理解・判断し効果的に表現しようとしている②。	言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
C	Bを基準とし、①もしくは②どちらかが不十分である。	Bを基準とし、①もしくは②どちらかが不十分である。	言葉を通して他者や社会に関わろうとしていない。
評価方法	定期考査 発問に対する答え	定期考査 発問に対する答え	定期考査 発問に対する答え 授業や課題等に取り組む姿勢
評価の重み	40%	40%	20%